



それらのたくさんの水の山はお日様の光をうけて、ダイヤモンドのように輝いて居りました。四番目のお姫様はその中でも一番大きな水山にのぼりました。

水の山に坐つて遠くをながめますと、大きな船が水山につきあたるのを、おそれてすかに／＼水の間を進んで居るのが見えました。

夜が来りました。



(それは大だつたのですが、お姫様は、はじめて見たものですから何がわからなかつたのです)お姫様は急におそろしくなつたのです。海へにげかへつてしまひました。歸つてからも、あの美しい森や珠の間、水にはいつつ遊んで居た可愛い子供達の事などが、どうしても忘れられませんでした。

四番目のお姫様が海の上に出るのをゆるされたのは、もう冬になつてからでしたので、今までどのお姫様も見れなかつた、もつと珍らしいものをたくさん見れる事が出来ました。

真青な海、その青い水の上に、まるでベロ（眞珠）をちりばめた様に色々な形をした水山が、たくさんうかる事が出来ました。

かんでゐました。

## 人魚のひめ



チ一ペ

又歌聲をきいてその意味がわかつても、誰も水底の御殿に行く事は出来ませんで。なぜかと云ひますと水底の御殿を見る頃にはその人たちは、もうとうに死んで居りました。(ツバク) ◇

丁度その頃、小さなお姉様は姉たちがたのしそうに手を組んで、海の上に出て遊ぶのを見て一人がなしんでも居ました。

インヂオ、と云ふ言葉を開くと何からかう遠い昔を思ひ起させられるが、いまだに我がブラジルの奥地には、そうとう多數なインヂオが生活して居るのである。

彼等の生活はと云ふと、勿論我々文明人と異なり、少しも進歩する云ふ事がなく、依然として今日なを四百年前、すなはち一五〇〇年のブラジルを見當時そのままの生活を營んで居るのである。

着る物と云つても、ほんと裸に近く、わざかに鳥類の羽、あるひは布切れをもつて身體の裝飾として居る。

彼等の用ふる狩獵並びに戦闘用武器に到つても、從來通り弓矢、父は TACAPE 棍棒<sup>（頭大棒、棍棒の一種）</sup>などである。

食料もこれらの武器によつて得る鳥獸類、魚類、又は密林中に生ずる果實、草木の根などである。彼等の棲家は四方を草でかこつた茅屋である。

彼等は夜是非常に早く寝る習慣を持つて居り、夜中オカス内に火を絶すと云ふ事がない。朝は太陽の上らぬ暗い中に起きて、働きはじめめる。それより食事を攝るのであるが、働きながらも食し、一日を喰べて暮す。

食時の時は、各自がへうたんで作つた食器を持ち、家長を中心にして、圓を作り皆同じ量に分配されたもの

ンヂオを喰べる。  
粉類、ボーロ、肉、魚、果  
實類など、これらのものを  
實に静かに物音一つ立てず  
に、ゆっくりとよくかんで  
喰べる。  
又彼等は非常に祭りを好み  
狩獵の收穫のあつた時、戰  
い程、同族で争ふ事  
をしない、これ等のオカス  
が、幾つも集つて一つの神  
落をなし、部落の長を、カ  
シケ又は、モルビツアバと  
呼ぶ。  
彼等の間には迷信が多く、  
ある鳥の啼き聲によつて死  
の知らせとする。  
又暴風雨、雷の音をおそれ  
る。これは雷は、彼等の神  
ツバンが怒り叫ぶものとし  
て居るからである。  
太陽及び月、星、を崇拜の  
念強く、月に依つて日をか  
のめ、父樹木に切り疵を付  
けらる、石を積かされて日  
かずを數へる。  
それをやつと、一五つ程度まで  
數へると、あとは、ツーベ  
(多數)と云つて止めてし  
まふ。  
そんな彼等ではあるが、い  
ざ戦となると色んな戦術で  
敵を苦しめるのである。  
一例をあげると、行進の時  
敵に自分等の數を知らぬ  
ために、前を行く者の足跡  
を後から行く者がふんで  
足跡を少しくして敵の目を  
くらます。又向きになつて  
歩き、敵に反対の方向で  
行つたと思はせるなど、我  
々にはちよつと想像もつか  
ぬ事をやつてのけるのであ  
る。(をはり)

## 我國のインチオ



サンバウロ 重田 充  
(十二才)

A black and white illustration showing a person sitting cross-legged on the ground, facing away from the viewer. They are holding a small object, possibly a seed or a piece of fruit, in their right hand, which is extended towards the sky. Several birds are depicted in flight around the person, some above and one perched on their shoulder. The background is simple, suggesting an outdoor setting.



『北風の馬追ひ』

四寸  
まるよし  
ひを  
のす  
があ  
がわ  
一  
度  
ん。  
はじ  
見  
れ  
つた  
が飾  
られて  
ます。  
月の元日でした。

（明治元年）血醒い世相  
ちにも新春はおとづれ  
術の家の門には、松  
が飾られてゐます。」

少 女 忠 殉 話 哀 幕

秘密な話を立聞きして、立たちとしむので、昔をさせたので、つかれて咎められ、仕方なしに……泣くれやすと、すわ。」  
「さあ、その事を、戸の薩摩屋焼成窯で、翔鳳丸の出来をも出して、直ぐ伏居へお知らせしたが、變な大手柄だつたの時まで、京都では、まるで知らぬふうだ。」

不  
弊店は組  
り皆様へ  
日本人への  
ますから  
聖

景氣到來  
お買ひ物は安い所で  
物、毛織物、人絹、綿布一切  
戦前の値段で販賣致して居ります  
店員が皆様の御立寄りをお待ち  
是非一度御来店下さい

カーデ近く) おもてなしの直接工場よりお立ちして居り

「そんなに、きびしいの  
がつてゐるのだ」  
「好い氣味だわ。……」  
「そなへ山口惜しがるのは  
私の辻占より、兄様がご  
お斬りになつたからだよ。  
……」  
「さうばかりでもない、  
兄妹は顔を見合せて、  
ヤリとしました。  
「でも、私は、……」  
ソウカニ又カナシシカニ、  
ヽ、トイヲカスカニ、  
ヲフリマシタ。「サム、  
レハヒドイ、大丈夫カ、  
ト、クマ公ノカマレタ、  
アリ。」  
チ見テ、バ、イハ言ヒ  
タ。ソシテ武夫ニ「武  
ソナケダモノダツタ」、  
ヒマシタ。  
「僕ヨクワカラナカツ  
アンマリビツクリシテ  
遠クナリソウダツタモ  
デモバ、イ犬ミタイダ  
ヨ、山ウサギ色ヨリ少  
シ、カスイ色ヲシタ  
マ公ヨリ少シ小サク見  
トケド」  
ト答ヘルト、兄サンガ  
「オ父サソ、山大カモレ  
マセニヨ、コノ前吉田  
ノ小父サソガ山大ヲ見  
言ツテ居マシタカラ」  
セマシタ。  
「ウン、ソウカモ知レ  
オレサ、カ、ナニカダ  
ラコノマニシテオカダ  
ダラウ、イクラタマ公  
タクタツテ」ト言ヒマシ  
(ツバキ)

般 通 用 機 械 部 品 販 賣 社 會	海運用盜難撫附防特製 郵便用函、其餘類一切
ノ ヨ ゼ 製 鋼 工 場	ノ ヨ ゼ 製 鋼 工 場
Frederico Alvarenga, 10 tel 2-3854 - São Paulo	ノ ヨ ゼ 製 鋼 工 場
内山哲 小野長司 唯野豊 森	内山哲 小野長司 唯野豊 森

店上切一はにて影B.セラレ御一ヨリ



